

目指したい学校の姿



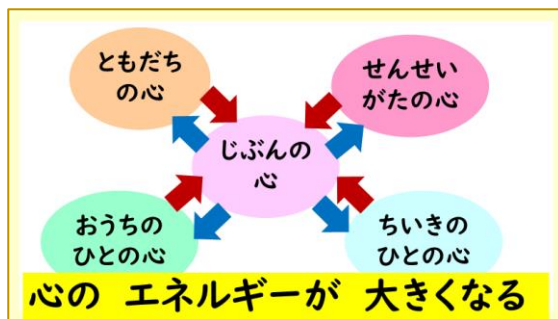
始業式の講話で使ったスライドです。カステラや畑の土、人の心、南陽小学校は、「しっとり」と「かさかさ・ぱさぱさ」のどちらがいいかを子どもたちに投げかけました。

しっとりしているカステラがおいしいし、畑の土は植物が育つ、人の心は優しくなる。南陽小学校もしっとりしていた方がよいと確認しました。「しっとり」は、「心が潤っている、満たされている」状態であり、人は穏やかで落ち着いて生活できることを話し、南陽小学校をそのような学校にしたい

と続けました。目指したいのは、『しっとり落ち着いた学校』です。(第4号参照)

では、どうしたらそのようになるのかとして、右のスライドを示しました。自分の周りの人々と関わりをもち、互いに心を潤し合う、満たし合うことが大事だと話しました。これによって「心の落ち着き」と同時に、心のエネルギーが大きくなっていくとも伝えました。

時間が足りず、今回は「互いに心を潤し合う、満たし合う」ことの具体に触れなかったのですが、昨年度は下のスライドを使って話していました。(第7号参照)



すべての人がねがうこと

- ① 生きたい
- ② 安全にすごしたい
- ③ なかまをつくりたい・愛されたい
- ④ みとめられたい
- ⑤ 自分の力を高めたい

人間は、5つの基本的欲求をもっているという説を基にしています。5つとは、生存の欲求、安全の欲求、所属・愛情の欲求、承認の欲求、自己実現の欲求です。スライドは、これらを子どもたちの言葉になおしています。はじめの4つの欲求を互いに満たし合う関係が築けると、5つめの欲求が沸き起こり、自発的に向上を求めていくようになるという考え方です。

「衣食足りて礼節を知る」という中国の故事成語がありますが、「生きること、安全であることを十分感じると、自分のことや相手のことを考えるようになる」という意味だと思っています。欲求の充足と人間の行動には関連があることを表しています。

③「仲間を作りたい・愛されたい」は、正に生存・安全のあとに望むことです。家族や学級などの集団に所属してメンバーとのつながりと自分の居場所を欲します。また、その集団の中で大切にされたいとも思います。周りの人々がこの欲求に応えるための言葉かけや集団への働きかけがポイントになります。

④「認められたい」は、所属感や愛情を感じた上で、次は自分の力を知って欲しい、力が伸びていることに気付いて欲しい段階となります。たっぴりと応えてあげることで、認められた喜びや自分の持っている力に自信を得て、自己肯定感の高まりと、「もっと認められる回数を増やそう」、「認められるレベルを上げよう」と考えるようになり、⑤「自分の力を高めたい」につながります。自発的な向上心、つまり自己実現への欲求が大きくなっていきます。

このような状態は、人として何事にも前向きに取り組む、また学びをとおして自身を成長させようとする意欲に満ちています。人として、「光り、輝く」状態です。子どもたちはもとより、私たち教職員や保護者、地域の皆様を含めた南陽小学校に関わる全ての人々がこうなっていくことをねらって、学校教育目標を「光り、輝く、チーム南陽小」と決めました。互いに働き掛け合って、ぜひ達成しましょう。

